

作業の結果

<2022年5月11日(水)実施>

ヒナに網をかぶせた時刻(ヒナ捕獲)	10:05
ヒナを箱に収容した時刻	10:10
足環装着・検体採取が終了した時刻	10:40
ヒナを巣に戻した時刻(ヒナ解放)	10:48
親鳥が巣に戻った時刻	11:30

<総括>

- ○孵化推定日(3月29日)から43日齢のヒナ2羽に個体識別のための足環装着及び検体採取を行いました。
- ○親鳥の体重が5.0kg程度、足環装着時のヒナの体重 は3.5kg~4.0kg程度であることを考えると、ヒナは、 順調に成長中と言えます。
- ○作業中のヒナは、終始おとなしい状態でした。
- ○親鳥はヒナ解放から40分程度で巣に戻りました。

個体番号	リング番号	左足		右足		体重
		上	下	上	下	Γ Τ ` <u>→</u>
J0424	14D-01424	緑	緑	青	黄	3.9kg
J0425	14D-01425	黒	黒	青	赤	4.6kg

足環装着の意義と作業手順



<作業の意義>

- コウノトリの個体番号が書かれた異なる組み合わせの色の足環を装着することにより、個体の識別が可能となり、個体の移動や生死、生態を詳しく調べることができる。
- 足環装着に併せて検体採取を行うことにより、 ヒナの健康状態や性別が分かる。

<作業の手順>

- 1. 高所作業車を使い、巣台からヒナを降ろす (親鳥は離れていく)。
- 2. ヒナの身体計測を行い、検体(羽毛や血液など)を採取するとともに、足環を装着する。
- 3. 高所作業車を使い、ヒナを巣台に戻す。
- 4. 作業班は巣塔から距離を保ち、親鳥が巣塔に戻ったことを確認して解散する。

ヒナを巣台で捕獲する



<ヒナ捕獲前の様子>

- ・高所作業車には、ヒナを捕獲する網や、ヒナを 入れる捕獲箱(段ボール)などを積みます。
- ・ヒナは巣の中に伏せていますが、立ち上がって 落下するおそれがあるため、ヒナの状態を絶え ず遠方から確認します。



<巣台の様子>

- ・ヒナが立ち上がってしまわないように、しゃが んだ状態から一気に、ヒナに網をかぶせます。
- ・ヒナを捕獲用の布に包みこんで動けないようにしてから、捕獲箱(段ボール)に移します。

ヒナを巣台から降ろす



<ヒナの捕獲>

- ・ヒナには目隠しをするほか、体温があがらない よう捕獲箱に保冷材を入れておきます。
- ・高所作業車が下降してから、検体採取・足環装 着の作業に移ります。



<ヒナの様子>

・巣台から降ろして、足環装着する直前のヒナの 様子です。

体重測定·足環装着





- ・体重と足の直径を測定後、足環を装着します。
- ・ヒナは、体温や脈拍を計測するとともにパルス オキシメーターを使うなど体調管理を徹底しま す。



<足環装着の様子>

- ・ヒナの足の太さを測定し、足環を装着します。
- ・足環には、3か所の穴があり、リベット(鋲) を打ち込んで固定します。

検体採取(羽毛·血液)





<検体の採取>

・ヒナの性別判定、さまざまな検査を行うため、 羽毛や血液、口腔スワブ(粘膜)を採取します。

<検体採取の様子>

- ・血液採取の様子です。
- ・ヒナの頸部から血液を採取しています。

ヒナを巣台に戻す



<巣台に戻す前のヒナ>

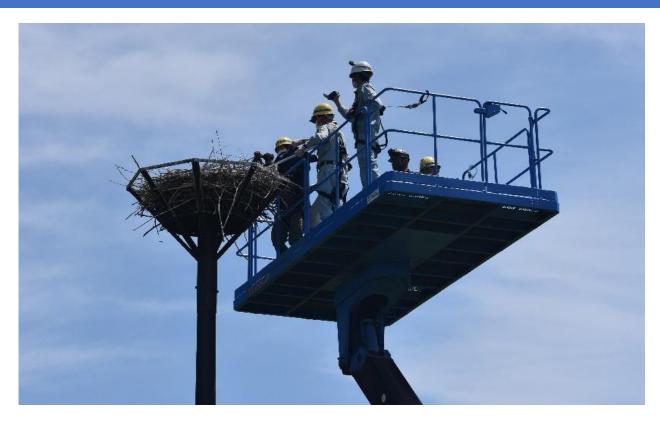
- ・捕獲用の布に包みこむ様子です。
- ・気温が高かったり日射しが強い場合は、傘をさして、ヒナの体調管理を徹底します。



<高所作業車の再上昇>

・ヒナを巣台に戻すため、高所作業車で再上昇しま す。

ヒナを巣台に戻す



<巣台にヒナを戻す >
・ヒナを捕獲箱から巣台に移動させます。



<巣台に戻した後>

- ・捕獲の際と同様、ヒナを巣台の上に運び、 捕獲用の布をはずします。
- ・ヒナには網をかぶせて、立ち上がらないようにします。

親鳥が巣に戻って、作業完了



<高所作業車での作業 >

- ・すべてのヒナを巣台に戻した後、網をはずして、 端に紐をつけた布をかぶせます。
- ・ヒナの視界が開けたときに、人が見えないよう、 高所作業車の下降の際、紐を引っ張って布を回収 します。

<親鳥の帰巣確認>

- ・高所作業車が下降した後は、親鳥が巣にもど ることが確認できるまで離れた場所で観察し ます。
- ・昨年は、1時間程度かかって親鳥が戻りました が、今年は40分ほどで戻りました。
- ・親鳥が巣に戻った後も、ヒナが動く様子が見られなかったため、しばらく観察を継続したところ、1時間以上経過してようやくヒナが立ち上がり、親鳥の吐き出す餌を食べる姿が確認できたため、作業終了となりました。

完全終了(解散)時刻 13:04